

一般質問

・御前崎市の災害・防災対策について



渥美昌裕

問

令和4年度は、竜巻・豪雨被害と多くの災害が御前崎市を襲いました。7月8日～10日にかけて大雨が降り、9月23日～24日には台風15号による大雨、突風被害が発生しました。

このように去年だけでなく、ここ数年前から尋常でない豪雨があり、深刻な状況となっております。市には、県管理の2級河川が8河川、総延長34・98km、市管理の河川が208河川、総延長165・96kmあります。その他にため池が50池、そのうち防災重点農業用ため池が33池です。この他に排水路など、管理・点検を要する物件がたくさんあります。

現在予想できる降雨量に合わせ河川、排水路等の許容水量を調査し、河川等の改良工事をしなければなりません。令和5年度以降に向けて、このような激甚災害をどう想定し、今後数年にわたる対応策、短期・長期計画を伺う

答

近年、大雨による被害が頻発しておりその対策は喫緊

の課題であると認識しています。河川・排水路については、断面不足が心配される箇所を調査した上で、順次、改修工事を実施しております。

令和5年度は、約2億円の予算を確保し、整備を進めてまいります。浸水被害のあった新野、朝比奈地区には土のうステーションを配置し、対策をより強化します。

また、防災行政無線の更新工事と併せて、防災アプリなど多様な伝達手段の確保に1億3,200万円や、各課が連動した被災者支援システムを構築します。加えて、迅速な被害状況の把握、危険区域における情報収集及び捜索・救援活動に貢献できる災害対応ドローンを2機導入します。これらのハード・ソフト対策については、市民の安全、安心確保に向け、情報共有を徹底し、横断的な連携を図りながら、市民との協働により進めてまいりたいと考えております。

一般質問

・子育て支援・少子化対策について
・带状疱疹ワクチン助成について



櫻井 勝

問

4月から「こども家庭庁」が発足、出産育児一時金が42万円から50万円に増額、妊娠時から「伴走型相談支援」と妊娠・出産時に計10万円相当を支給する経済的支援を一体的に国は実施する。そこで、御前崎市の少子化対策と若者の流出対策及び通勤距離に応じた助成制度について伺う

答

本市はこれまで様々な子育て支援や、少子化対策を行ってまいりました。現在も「第2期御前崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、4つの戦略と12の施策を掲げ、人口減少に歯止めをかけるべく、25の具体的な事業に取り組んでいます。本市でも「出会いの場を提供する取り組み」を行っており、若い世代が本市で家庭を持ち、子どもを産み育てたいと思えるよう、引き続き活力あるまちづくりに努めてまいります。議員ご提案の「通勤距離に応じた助成制度」につきまして、今後の参考とさせていただきます。

問

带状疱疹は、加齢や疲労などによる免疫力低下に伴い、誰でも発症する可能性のある病気です。50歳以上の方が予防することができ、ワクチン助成制度が適用の近隣市もあります。御前崎市はどの程度の補助があるのか

答

带状疱疹ワクチンの定期接種化につきましては、国の厚生科学審議会において、現在も検討が進められており、昨年8月の審議会においても「引き続き検討を要する」と判断され、不透明な状況でございます。しかしながら、本疾患は50歳からの発症率が高いとされ、高齢化が進んでいる現状や、近年はコロナ流行に伴うストレスや運動不足による免疫力低下などの要因により、今後は増加傾向になるとの懸念があります。またワクチンを推奨するテレビコマーシャルも頻繁に目にすることから、世間の带状疱疹に対する関心が高まっていると感じております。今後につきましては、近隣市の実施状況も踏まえながら、助成制度の検討をまいります。